

れません、それらを救ふてやりますには、皆様の
お力に頼る外ありませんから、どうぞ御盡力
を願ひ上げます。

私せん 幼 稚 園
立仙臺 幼 稚 園

この幼稚園設立の趣意及目下の状況は左の如し
趣意書

私立仙臺幼稚園設立ノ要旨左ノ通り

客歳二月暴露警懲ノ師ヲ興サレシ以來、陸ニ海ニ連戦連捷ノ戦
果ヲ收メタルハ、
至尊ノ御稜威ト忠勇義烈ナル將卒ノ奮勵トニヨルハ勿論ナレド、
平素我國民ノ本分トシテ幼時ヨリ忠君愛國テウ念慮ヲ涵養シタル
家庭訓育ノ効モ亦與テ力アリト信シラル、去レハ今回ノ日露
戦争ノ經過ニ鑑ミ、益々兒童教導ノ必要ヲ感シ、明治乙巳ノ戦役
紀念トシテ茲ニ本年四月一日萬歳ヲ排シ、自ラ奮テ本園設立ヲ
企テ、拮据經營終ニ全年五月一日ヲ以テ開園式ヲ舉行致シタル
次第ナリ、然ルニ幸ニシテ本園設立ノ旨趣ハ世ノ歡迎スル處ト
相成リ、僅カニ二ヶ月ヲ經サルニ入園ノ幼兒九十名ニ達シタル
仕合セナリ、元來本園ハ時局柄奉公ノ万分ノ一ヲ裨補シ、將來大

戦捷國ノ健全ナル國民ヲ養成セントスルモノナレハ、出征軍人
ノ遺族若クハ事情アルモノニ對シテハ保育科ヲ裁額シ、又ハ全
ク無料ヲ以テ其旨趣ヲ貫徹セント努ム故ニ着々其趣ヲ擴充シテ
世ノ同情ヲ求メツ、有之、今ヤ漸次盛大ノ機運ニ進ミ設備ノ基
礎モ確立ノ期ニ向ヘリ、而シテ現時幼児教導保育ノ任ニ當リ居
ル者ハ園長立花せん保母二名助手二名ニ之レアリ、
次ニ此寫眞ハ去ル六月帝國艦隊カ天佑ト東郷司令長官ノ奇譚妙
策トニ因リ、敵ノ波羅的艦隊ヲ日本海ニ殲滅シ大捷ヲ奏サレタ
ル當日ノ紀念ノ爲メ撮影致シタルモノニシテ、帝國海軍々人ノ
勇壯ナル行動ヲ永ク幼兒等ノ腦裏ニ印セシメンスル微衷ニ外ナ
ラス、

茲ニ本園幼兒ノ寫眞ヲ捧上スル際ニ其事由開陳云々

明治三十八年七月

私立仙臺幼稚園設立者

正八位 立花精一郎

立花 せん

雜 報

東京保母養成所

去る四月開所せる全所は、先月廿三日卒業式を舉
行し卅五名の卒業生と、十七名の修業生とを出せ

り、全日は澤柳局長、岡事務官、黒田、中村、

東の三教授、湯本開發社長、丸山東京府女子師範

教諭を始め、其他市内學務關係者、田中房子及重

なる幼稚園休姆等の來賓あり、證書授與の後には

多田房之輔氏の報告、澤柳局長の演説、岡事務官

湯本氏の演説ありて、場所は狭かりしも、式は他

に見ざる盛大嚴肅を見たり。幼稚園に家庭に保姆

を要すること漸く多さを加へたる今日この事を

る、斯道の爲に慶賀の至なり當日の演説の大要は

次號に紹介すべし。

尙全所にては先月より更に高さ程度の養成を開始

せるがこれ亦非常の盛況なりと

岡田光子の歸朝

前年米國に英語研究の爲めに留學を命ぜられたる

同嬢は先月廿二日無事歸朝、直ちに女子高等師範

の英語科を擔任教授せらるゝこととなりたり。目

下同校英語科に於ては、高嶺校長を始め篠田、武

田の二教授、米國人ミスハーツホン、プリンマ大

卒業河井道子等の諸師に由りて近來頓に進歩の

域に向へる折柄、全嬢の歸朝に由りて錦上史に花

を加ふるの觀を見るべきなり

入會 會報

下谷區西町小學校

本郷區新花町九八

新潟市幼稚園

神戸市上灘通り二丁目四六

栃木縣安蘇郡佐野町佐野幼稚園

静岡縣静岡幼稚園

埼玉縣入間郡川越町私立川越幼稚園

金澤市長町五番丁一六私立木ノ花幼稚園

本郷區西片町十番地ホノ一九

芝區高輪北町三一

神戸市頌榮幼稚園

岡山市深抵小學校

土方鉞太郎

近澤岩吉

樋口いく

増田卯之助

永島やま

宇式かん

榎本忠三郎

長寛子

山中權十郎

金原てい

和久山きそ

長尾瀧野